

原 著

本学における生体肝移植の現況

武田和永¹⁾, 田中邦哉¹⁾, 熊本宜文¹⁾, 野尻和典¹⁾,
森隆太郎¹⁾, 谷口浩一¹⁾, 松山隆生¹⁾, 森岡大介¹⁾,
関戸仁¹⁾, 斉藤聡²⁾, 窪田賢輔²⁾, 寫村健³⁾,
前川二郎⁴⁾, 嶋田紘¹⁾, 遠藤格¹⁾

¹⁾ 横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学,

²⁾ 同 消化器内科, ³⁾ 同 臨床腫瘍科, ⁴⁾ 同 形成外科

要 旨: 教室では1997年11月から2010年12月までの13年間に53例の生体肝移植を実施した。レシピエントの生存率は1年生存率78.5%, 3年および5年生存率はそれぞれ74.4%, 74.4%であった。レシピエント長期生存例に対しては, 原疾患の再発など, 内科領域からみた管理も必要とすることがあり, 多方面からの協力をあおいでいる。一方, ドナーでは致死的および重大な後遺症を伴う合併症は認めず, 術後平均在院日数は13日であった。これは他の High volume center と比較して遜色のない成績である。しかし, 本学には肝移植コーディネーターが不在であり, レシピエント, ドナー, そして家族に対する精神的なサポートが十分とはいえない。今後, 脳死肝移植を当院で実施するためには, 肝移植コーディネーターの存在が不可欠である。

Key words: 生体肝移植 (Living donor liver transplantation)